北海道の自然（北海道自然保護協会会誌） No.55 2017，33-40

未完成の北海道百年記念事業
―野幌の森の道路問題―

五十嵐 敏文

要旨

野幌の森を道立自然公園という形で未来に遺す北海道百年記念事業はまもなく50周年になろうとしているが、自然公園指定時の町村金吾元知事の「無車道」の理念は、江別市のRTN工業団地造成という時代の波に翻弄され、いまだに実現していない。「中央道路」が閉鎖されていないため、いまだに未完成なのである。この道路問題を解決することは自然公園管理者の北海道と市道管理者の江別市の責務であり、解決の先送りはすべきではない。「今、ここ」での解決を強く求めたい。また、同道路の閉鎖は地域住民の同意が得られないため実現していないのだが、同地域は関矢孫左衛門ゆかりの地域であり、関矢孫左衛門ゆかりの人々には、野幌の森を道立自然公園として未来に遺すために、先人に倣う決断を望みたい。

1 はじめに

野幌の森は石狩平野の野幌丘陵にあり、標高30～90 mほどの比較的なだらかな森林地域の公園である。札幌市・江別市・北広島市にまたがり、森林の保護育成や教育、自然に親しむ場として、市民たちに広く利用されている。その規模や生態系の豊かさは他に例がなく、オーストリアのウィーンの森やフランスのフォンテンブローの森などと並び都市近郊林として、世界的に有名である。現在、この森全域(2,053 ha)は道立自然公園野幌森林公園となっているが、国有林部分(1,603 ha、約78%)は昭和の森野幌自然休養林にもなっている。

野幌の森の歴史は古く、表1に示すように1874（明治7）年の官林調査にはじまる。道立自然公園野幌森林公園に指定されたのは、1968（昭和43)年北海道百年を記念してのことで、当初は、後述のように、公園内には一般車両を入れない構想であった。しかし、現実には今日に至るまで、公園中央部を東西に走る「中央道路」に一般車両が通行し、これに伴いゴミの不法投棄がされるなど、公園管理の障害になっている。フォーラム野幌の森は、「中央道路」の閉鎖を求めて長年活動を続けている。

小論では、野幌の森の歴史と豊かなで多様な自然を紹介するとともに、フォーラム野幌の森の「中央道路」などに関わるこれまでの活動を述べる。

2 野幌の森をめぐるいくつかの問題

本題に入る前に、都市近郊にある自然公園であるが故に、野幌の森をめぐって生じている様々な問題のうち、近年問題になった休養園地整備計画、農道整備、および危険木伐採について簡単に述べたい。

2.1 休養園地区整備計画問題

野幌森林公園の大沢口近くにある休養園地区の整備計画問題は、1996年に公表された北海道立埋蔵センターと自然ふれあい交流館などの施設整備を含む計画である。既存の自然保護団体が整備計画に賛成する「四面楚歌」の状況で、地域住民が「森があり、草原があり、オオジシギが飛んでいる、そんな空間を残したい」との思いから反対運動を展開した。同計画中の埋蔵文化財センターは、北海道教育委員会が江別市立文京台小学校を半分囲むようにして建設した。当初は「埋蔵文化財保存施設」であり、「整理作業場」と「導入路」とされていた。現在は展示施設と駐車場も設けられている。3回開催された「埋蔵文化財センター建設基本構想検討委員会」の議事録は存在しないとされ、同教育委員会の担当課長は計画内容の変更を「ゲル状のものが固まった」と釈明した。当時の南原一晴教育長は、住民団体に対し計画推進当初に誤りがあったことを謝罪し、「よい着地点をさがしたい」と発言したが、その4か月後に同センターは

表1　野幌森林公園の歴史

西暦	年　号	概　　要
1879	明治12年	開拓使札幌支庁による官林（国有林）調査結果（調査は明治7年に開始） 野幌官林は面積5,607町歩、樹木本数841万本（針葉樹21%）。
1888	明治21年	北越殖民社の入植はじまる。
1895	明治28年	水源涵養のため禁伐林となる（枯損木は薪炭材として地元民へ払い下げ）。
1899	明治32年	野幌官林を札幌区・江別村・広島村・白石村に分割払い下げする方針が打ち出されたが、関矢孫左衛門など地元民の反対運動によって中止される。
1908	明治41年	野幌林業試験場が設置され、野幌国有林約3,426haが試験林となる。
1909	明治42年	禁伐林解除（苗畑用地や試験植栽のために20町歩を皆伐）。
1915 〜 1921	大正4年 〜 大正10年	毎年10町歩内外ずつ、カラマツ・ヨーロッパトウヒ・トドマツ・エゾマツ・ヨーロッパアカマツ・ストローブマツ・スギ・グイマツ・ヤチダモなど外国産、本州産、道産の樹種が植栽される。また、林内の一部トドマツ林320.5haが史跡名勝天然記念物「野幌原始林」に指定される。
第2次世界大戦中		軍用材生産のため大規模な伐採が行われる。
1945	昭和20年	食料増産のために、約2,198haが農耕地として解放され、野幌国有林はほぼ半減する。
1952	昭和27年	「野幌原始林」が天然記念物から特別天然記念物に昇格指定される。
1954	昭和29年	洞爺丸台風により、甚大な風倒木被害が発生する。（被害材積約44,000 m³）。
1959	昭和34年	洞爺丸台風の被害の回復が困難として、特別天然記念物「野幌原始林」の一部が指定解除される。1962年には、北広島地域（約40ha）を除き、指定解除される。
1966	昭和41年	北海道は1968年までに開拓跡地など297haを公園用地として購入する。
1968	昭和43年	北海道百年を記念して、道立自然公園野幌森林公園に指定される。
1969	昭和44年	野幌国有林（1,603ha）が林野庁により野幌自然休養林に指定される。
1970	昭和45年	公園南側のアオサギのコロニーが「国設サギの森」特別保護区に指定される。
1977	昭和52年	野幌自然休養林が昭和天皇在位50年を記念して「昭和の森」に指定される。
1983	昭和58年	公園内の大径木900本の伐採に市民有志が反対し、「野幌森林公園を守る会」が結成される。（1987年にクマゲラ一斉調査が行われ、現在まで続いている。）
1989	平成元年	公園東側に隣接して、道立野幌総合運動公園が完成する。
1996	平成8年	北海道が公園の休養園地区整備計画を公表する。（現在の自然ふれあい交流館と埋蔵文化財センターを建設する計画で、当時地域住民による反対運動が起きる。）
1997	平成9年	公園南部の普通地域に立命館慶尚中・高校が開校する。アオサギがコロニーを放棄する。
1999	平成11年	北海道開発局が公園内の江別市道（立命館慶尚中・高校そば）を農道ルートの一部として拡幅整備する計画（野幌東地域基本計画書）を公表する。
2000	平成12年	石狩森林管理署により、大沢園地周辺で「危険木」8本が伐採される。
2002	平成14年	石狩森林管理署長が交代し、「危険木」伐採が再び始まる。（2004年3月までに329本の伐採を強行する。）この問題が国会の農業委員会で取り上げられる。
2004	平成16年	台風18号により風倒木被害（約10,000 m³）が発生する。交代した署長が「台風により危険木は淘汰された」として、「危険木」伐採が収束する。

北海道野幌森林公園事務所（1994）、北海道森林管理局（2005）より作成。

着工された。結局、北海道教育委員会は住民団体を騙したのである。同計画の中で、道路建設のために小学校校門横の防風保安林解除が行われたが、住民団体は森林法に基づく異議申し立てを行い、北海道では26年ぶりとなる同法による意見聴取会を開催するに至った。同保安林解除が適切とされた後には、行政不服審査法に基づき農林水産大臣あてに審査請求「執行停止申立書」を提出したが、棄却された。しかし、素人集団が法的対抗手段をとったことはインパクトがあった。同時進行していた自然ふれあい交流館建設を含む計画も、当初計画で予定していた駐車場入り口建設のために保安林解除を必要としたが、計画は変更・縮小され、現在に至っている。主婦3名から始まった自然保護系の住民運動は、副知事に面会して抗議するなど、一定の成果をあげたのである。

2.2　農道整備問題

農道整備問題は野幌森林公園南部の普通地域にある江別市道の拡幅整備を含む、約110億円の公共事業「特定地域農用地総合整備・野幌東地域基本計画」の一環であり、栗沢町・南幌町・江別市にはそれぞれに農産物の輸送とは無関係の思惑があった。すなわち、栗沢町では老朽化した清幌橋に替わる新たな橋の建設、南幌町では推進していたゴルフ場などレクレーション施設への札幌方面からの誘致道路、江別市では誘致した立命館慶祥中・高校へのもみじ台通りからの通学道路拡幅整備であった。このことは「農林水産大臣様、苦情申立て上げます」（五十嵐 2001）で明らかにした。

活動の終盤には、この文書を農林水産大臣官房予算課と事業課にファックスしたが、後に同計画中止が明らかにされた北海道開発局札幌開発建設部との会合の席上で担当係長が上記のファックス文章を手にしていたことは印象深い。この道路整備計画中止は、この公園内での新たな開発を防いだのではないだろうか。なお、フォーラム野幌の森は、この農道整備計画に反対して結成された団体である。

2.3 危険木伐採問題

この問題は北海道大学のポプラ伐採問題と同時期に起きた。野幌の森の場合、石狩森林管理署S署長から交代したA署長が、風致景観の維持が優先される自然公園の第1種特別地域内の巨木さえ伐採するなど、公園内遊歩道沿いの樹木300本以上を、管理者の管理責任であるとして伐採を強行した。この問題に参加した元江別市議は「業者との癒着。危険木伐採に名を借りた仕事作りに過ぎない。」と批判した。あまりの強行姿勢に我々は国会議員を頼ることもした。最終場面では林野庁国有林管理室長宛てに抗議のファックスを3回送った。1枚のファックスで1本の樹木が残され、そうして伐採を逃れた樹木は今も健在である。危険木伐採問題は奥谷（2004a，b，2005）が詳しく報告している。

3 野幌の森の歴史

この森が現在に至るには二つの大きな出来事があった。一つは、関矢孫左衛門などによる分割払い下げ反対運動である。1899（明治32）年、北海道庁から当時施行予定だった町村制のために、野幌官林を札幌区・江別村・広島村・白石村の基本財産として分割払い下げする方針が発表された。これに対し、新潟県から野幌に入植していた北越殖民社の関矢孫左衛門、広島村の和田郁次郎らは水田用水の確保、作物への防風効果、気候の調和などのために、森林の保全を求める反対運動を起こした。同年4月2日、当時の園田安賢北海道庁長官に面会し、抗議するも聞き入れられなかった。その後、上京する園田長官を追いかけ、4月8日に函館で園田長官に面会し、強く抗議した。これにより園田長官は分割払い下げを中止した（松山2002）。野幌の森が現在に至る原点になったのである。道職員として自然公園指定の百年記念事業に係り、後に野幌森林公園事務所長も務めた俵　浩三氏は「もしもこの反対運動がなければ、今日の野幌森林公園も存在してはいなかったであろう。[中略]野幌の森は、やはり破壊される前に近代的知性による保護策が講ぜられており、大沼や大雪山とはまたちがった自然保護の歴史が流れていることを知った。とくに北越殖民社の人々が明治の中頃に熱烈な森林保護運動を行ったことには深い感銘を覚えた。」（俵 1978）と述べている。

もう一つは、道立自然公園に指定されたことである。1962（昭和37）年1月に、1968年の開道百年を記念して北海道百年記念事業を実施することとなり、事業内容の検討が始まった。1966（昭和41）年3月に、北海道百年記念事業として、野幌に記念公園と記念地区を設けることが決定した。これを受け、1966年から1968年にかけて、北海道は開拓跡地（ほとんどが戦後の開拓跡地）など297 haの民有地を公園用地として購入した。1968年5月に、道立自然公園野幌森林公園の指定および公園計画が決定した（北海道野幌森林公園事務所1994）。公園区域2,053 haのうち、1,603 haは国有林であるが、野幌の森が道立自然公園という形で遺されることになったのである。

4 野幌の森の自然環境

野幌森林公園区域の中央は、南北方向に走る、やや小高い分水嶺となっていて、この分水嶺を境に、東側の沢は千歳川の支流に、西側の沢は豊平川の支流になっている。これらの沢には、灌漑用に作られた溜池があり、森の多様性の重要な環境要素となっている。この森の四季については、「原始林の自然―四季と生きものたち」（村野 2002）に詳しい。

4.1 植生

野幌森林公園は一般には「野幌原始林」として知られているが、公園区域内の天然林には、風害の処理のための伐採や補植など何らかの人手が加えられていて、実際に人手の加わっていない「原始林」はない。かつては、現在の公園区域内にも天然記念物指定区域があったが、1954（昭和29）年の洞爺丸台風の被害が甚大で回復の見込みがないなどの理由で、道立自然公園指定以前の1959年と1962年に指定が解除された。それでも、公園区域内の天然林には、温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様子が比較的よく残されていて、ミズナラ・カツラ・シナノキなどの温帯性の広葉樹林、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹林、これらの樹種が入り交じった針広混交林からなる多様な林相が見られ、100種を超える自生樹木が記録されている。人工林も公園面積の40%

写真1　確認されたオオヤマオダマキ
（2016年6月　五十嵐敏文撮影）

写真2　大沢口前で確認のトノサマガエル
（2016年6月　五十嵐敏文撮影）

ほどを占めるようになっていて、トドマツやカラマツのほか、明治末から林業試験場によって試験植栽されたストローブマツやトウヒなど60種を超える外来樹種が見られ、林齢が70年を超える人工林もたくさんある。また、公園区域内では400種を超える自生の草本類が記録されている。（北海道野幌森林公園事務所 1994）

なお、2016（平成28）年6月に、筆者はある植物を見つけた（写真1）。これを確認していただいた村野紀雄氏によれば、オオヤマオダマキとのことであり、「野幌では初めての観察例となります。明治以来の諸先生方の目録にもなく、生育場所も様々な手を加えられたところですから、近年誰かが持ち込んで植えるか播くかしたもので、野幌では外来種となります」とのことである。この他、公園内では植栽されたと思われるシラネアオイが見られるなどの外来種問題もでている。

4.2　野生動物

この地域には、様々な林相の天然林・幅広い林齢の人工林・草地・小川・溜池など、多様な環境がそろっているため、天然記念物のクマゲラをはじめ、シジュウカラ・アカゲラ・キビタキ・オオルリなどの森林性の鳥類を中心に、120種類を超える野鳥が記録されている。また、キツネ・タヌキ・イイズナ・ノウサギ・エゾリス・シマリス・ヒメネズミなどの小動物が生息している。爬虫類ではカナヘビ・アオダイショウ・シマヘビなど、両生類ではアマガエル・エゾアカガエル・エゾサンショウウオなどが生息している。昆虫類も、多様な植生を反映して、たくさんの種類が生息している。（北海野幌森林公園事務所 1994）なお、両生類では、国内外来種であるツチガエルとトノサマガエルの侵入と分布拡大が確認されている（写真2、堀・水島 2016）。

5　野幌の森の道路問題

5.1　公園内の道路

野幌の森には、豊かな森を東西に横断する2本の道路があり、一般車輌が通行している（図1）。一つはこの森の南端部（公園区域の普通地域）に位置し、もみじ台通りからトド山口（立命館慶祥中・高校前）を通り、東7号線を経て、道道江別恵庭線に抜ける江別市道であり、もう一つは中央部（公園区域の第2種特別地域）に位置し、南郷通りから北星高校前を通り、瑞穂口から登満別園地を経て道道江別恵庭線に抜ける道路である。後者の道路（以下、中央道路という）の中間部では、公園中央部を南北に走る石狩森林管理署が管理する林道（図1の中央線）があり、中央道路を東側（基線）と西側（西3号）に分けている。中央道路は、道立自然公園の公園利用計画では、「歩道（同時に公園管理車道）」と位置付けられている。生活道路ではないので、冬期間は除雪されていないが、雪のない時期には一般車輌が通行している。つまり、自然公園内の「歩道」に車両が乗り入れ、通り抜けしていることになる。これは大変おかしなことであり、何故だろうか。

5.2　無車道の理念

野幌の森を道立自然公園に指定するにあたり、当時の町村金五知事は1969（昭和44）年4月の道議会で、「自然保護と道路建設の調和をどのように考えているのか」との質問に「自然公園内の道路計画は、無車道地区を作って、車の通らない道路を作ることを考えている」と答弁している。また、俵（1978）は「公園の指定に先だち、加藤誠平東

図1　野幌森林公園マップ（フォーラム野幌の森　2016 を改変）

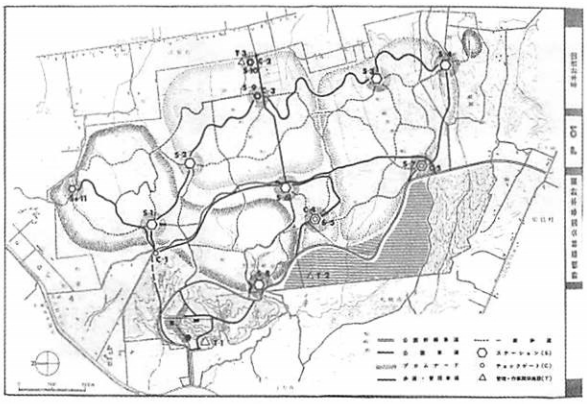

図２　加藤誠平東大名誉教授作成の野幌森林公園基本計画図

大名誉教授に公園基本計画の作成を委託し、その趣旨は全般的に尊重されている。ただ公園内の自動車利用については、加藤先生の案では園内に循環車道等が計画されていたが、当時の町村金吾知事の強い意向もあってこれは歩道となり、園内への自動車侵入は規制されることとなった。」と述べている（図２）。

このようにして公園内の特別地域は、一般車両の通らない無車道地区とされたのである。（なお、余談ながら、俵は当時道職員として事業に係っており、加藤誠平東大名誉教授作成の公園基本計画をお断りするにあたり、桐の箱に入ったメロンを持参して訪れたとのことである。）

5.3　中央道路（基線および西３号線）問題

1969（昭和44）年８月に、町村知事名で江別市長あてに「江別市道（基線および西３号線）廃止に関することについて」という要望書が出された。だが、同市道の廃道がされないまま、1976（昭和51）年３月にこの森の東側（道道江別恵庭線沿い）の地域農家住民が札幌方面への農産物輸送のためとして、同市道の拡幅整備の要望書を江別市に提出した。山田市長（当時）は「不便さは理解できるが、当時の町村知事が自然を守る精神から開墾した土地を買い戻し、自然公園に指定している。貴重な自然の破壊に繋がる」と説得した。しかし、1982（昭和57）年頃、江別市RTN構想（工業団地造成計画）が公表され、1985（昭和60）年11月、江別市は「昭和64年の国体後の道立野幌総合運動公園等の施設の活用、RTN構想に関連し、野幌森林公園の利用等について見直す」と方針転換した。1986（昭和61）年３月、江別市議会での「野幌森林公園は貴重なものであり、慎重な対応が必要である。RTN構想では中央に道路整備が計画されているが、国・道の合意は得られるのか。」との質問に対して、岡市長（当時）は「野幌森林公園を守るとの見地から、防火帯の設置について国・道にかける。」と答弁した。こうして1986（昭和61）年から翌年にかけて、同市は「中央道路」を防火帯道路として直線化し、拡幅整備すること、公園利用計画の「歩道」から一般車両の通行する「車道」へ変更することの２点を知事に要望して、RTN工業団地予定地と周辺地域農家住民を巻き込んだ大規模な運動を展開した。江別市は企業誘致のために、札幌市厚別区にある工業団地（札幌テクノパーク）との連絡道路を建設することで、RTN工業団地の地理的劣性を補おうとしたのである。このような動きに対し、1987（昭和62）年６月、野幌森林公園を守る会[注1]が、知事あてに同道路を「歩道」として利用する要望書を提出した。

こうした中、1988（昭和63）年12月、北海道自然環境審議会は「中央道路」について、①公園利用計画で位置付けられている「歩道」は、今後も「歩道」としての位置付けを継続していく、②したがって、江別市から要望のあった「歩道」から「車道」への変更は行わないものとする、③当面の対策として、森林火災予防のため、パトロールや消火器具の増強、モニターテレビカメラの設置による監視体制を充実する、との結論を出した。その後、北海道と江別市の間で「中央道路」についての協議は行われず、新たな進展はなかった。

5.4　「無車道」の理念実現に向けて

2001（平成13）年11月、フォーラム野幌の森は会員からの提起により、「中央道路」問題に取り組むことを決定した。その後、情報開示請求などにより情報収集して資料を作成し、関係行政を訪れて、当会主催の会議への参加を打診した。2002（平成14）年４月、フォーラム野幌の森は江別市・北海道・石狩森林管理署の参加を得た会議を開催し（写真３）、「中央道路」の閉鎖にむけた活動を始めた。

同年７月、フォーラム野幌の森はハガキ回収による同道路の利用アンケート調査を実施した。

2003（平成15）年１月、小川江別市長（当時）

注１　野幌森林公園を守る会：1983（昭和58）年２月に野幌森林公園の瑞穂地域（国有林）で計画されたトドマツの大径木900本ほどの伐採中止を求めて結成された。1987年３月に実施されたクマゲラ一斉調査は現在も続いている。同会の代表は、農道整備問題をきっかけに結成された「フォーラム野幌の森」に、副代表として個人参加し、共に活動している。

写真 3　フォーラム野幌の森・江別市・北海道・石狩森林管理署による会議
（2002 年 4 月開催、北海道新聞記事より）

と地域住民の懇談会が開催されたが、同道路閉鎖について住民の同意は得られなかった（武中 2005）。同年 3 月、江別市長選挙候補者に面会し、公開質問状を提出した。同年 5 月、再選された小川江別市長（当時）に公約の「市民連合協議体」の早期具体化を求める要望書を提出した。同年 6 月江別市議会における、中央道路の通行止めについての質問に対して、同市長は地域住民や関係団体と協議し、通行規制を実現したい旨を答弁した。同年 9 月江別市企画課より、同道路閉鎖には住民の反対意向が強く、「市民連合協議体」は立ち上げできない旨の連絡があった。

他方、2004（平成 16）年 11 月には、「ここから先の区間は歩道です。一般車両は通行できません。江別市」との看板（写真 4）が森の入口 3 か所に設置された。同道路が公園利用計画の「歩道」であることが明示され、「無車道」の理念に一歩近づいたと言える。

2007 年（平成 19 年）3 月、江別市長候補三好氏に公開質問状を提出し、「原点に立ち返って、考える。」と回答を得た。同年 4 月には三好市長（当時）に面会し、同道路問題の解決を要請した。

写真 4　2004 年 11 月に江別市が設置した看板

5.5 「今、ここで」の解決を

近年、野幌の森周辺は、道道江別恵庭線や同道路と国道 12 号を結ぶ「白樺通り」が拡幅されるなど、道路整備率は高い。そのようなこともあり、「中央道路」は農産物の輸送には使われておらず、また冬期間は除雪もされていないので車両は通行できず、必要性はかなり低い。現在、江別市は同道路の交通量調査を継続するなど閉鎖に向けて取り組んでいるが、RTN 工業団地造成構想などで江別市に翻弄された地域住民の同意が得られておらず、いまなお一般車両が通行している。このため、数年前まで実施された江別市による市道管理のための路肩の草刈りにより、「北海道立自然公園条例による高山植物の指定」リストにある植物が損傷されていた。フォーラム野幌の森が関係行政に働きかけた結果、江別市は草刈り廃止を決定したが、なお、同道路ぞいの植物は砂塵にまみれ、ゴミの不法投棄が繰り返されている。また、一般車両が通行している林道区間は、車両のはみ出し走行のため、林道幅は本来の林道規格幅を大きく超えているなどの問題がある。

かつて、田中角栄の「日本列島改造論」（1972）により、日本全国で工業団地の造成が盛んに行われた。北海道では、国家プロジェクトとして苫小牧東部大規模工業基地開発が行われたが、破綻した。町村元知事による自然公園指定時の「無車道」の理念は、江別市の RTN 工業団地造成という時代の波に翻弄され、いまだに実現していない。野幌の森を道立自然公園という形で未来に遺す北海道百年記念事業はまもなく 50 周年になろうとしているが、「中央道路」が閉鎖されていないため、いまだに未完成なのである。「野幌の森は明治のはじめから、その良林としての存在が意識され、北海道の開拓が進展する過程のなかでさまざまな経緯を経ながらも保存されてきたのである。そういう意味で、野幌の森はまさに尊い遺産であり、我々はこれをよりよい状態に育てあげながら、後代に引き継ぐ義務をもっているといえよう。」（俵 1978）。こうした視点から、この道路問題を解決することは自然公園管理者の北海道と市道管理者の江別市の責務であり、解決の先送りはすべきではない。「今、ここ」での解決を強く求めたい。

引用文献

江別市　江別市教育委員会編（2002）野幌原始林物語：森と人々とのシンフォニー.394 p.

北海道森林管理局（2005）野幌森林再生検討会報告書.33-34,65.
北海道野幌森林公園事務所（1994）道立自然公園野幌森林公園要覧.29-31,49.
堀　繁久・水島未記（2016）野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について.北海道博物館研究紀紀要,1,39-52.
五十嵐敏文(2001)農林水産大臣様,苦情申し立てあげます一野幌森林公園内の農道拡幅計画への疑問一.北海道の自然（北海道自然保護協会会誌),39,63-66.
松山　潤(2002)野幌原始林は残った.江別市教育委員会編,野幌原始林物語：森と人々とのシンフォニー,19-31.
村野紀雄(2002)原始林の自然一四季と生きものたち.江別市教育委員会編,野幌原始林物語：森と人々とのシンフォニー,321-335.
野幌森林公園を守る会編（1987）クマゲラ一これまでの活動記録とクマゲラ一斉調査一.54 p.
奥谷浩一(2004a)野幌森林公園における森林保護のための市民活動.札幌学院大学人文学会紀要,75,27-60.
奥谷浩一(2004b)野幌森林公園の「危険木」伐採問題.北海道の自然（北海道自然保護協会会誌),42,65-73.
奥谷浩一（2005）その後の野幌森林公園「危険木」伐採問題と台風18号.北海道の自然(北海道自然保護協会会誌),43,71-82.
武中　桂(2005)野幌の生活環境史一「ヤマ」を受け継ぐ一.北海道大学大学院文学研究科修士論文,108 p.
俵　浩三（1978）野幌森林公園一その自然保護100年の歩み一.国立公園,8月号,6-11.

五十嵐 敏文（いがらし　としふみ）
フォーラム野幌の森代表。渓流釣りが高じて、43才から自然保護活動に取り組む。日高の山奥の渓流で頭上に架かる橋を見て、「こんなところに道路はいらない」と思った。その後、「止めよう日高横断道路全国連絡会」の活動に参加した。酪農学園大学を1年多く通い卒業。